

福島原子力事故復興に対する水化学からの貢献について

勝村庸介

3月11日にマグニチュード9.0の大地震が東日本を中心に襲いました。これで発生した津波により多くの犠牲者が出るとともに、福島第一原子力発電所の事故が誘発されました。発電所のサイト内では、水素爆発により原子炉、タービン建屋などは大きく損壊し、放射性物質で汚染された水やがれきであふれることになりました。また、ベント、水素爆発で放射性物質がサイト外に放出され、近隣の市町村が放射線汚染され、多くの住民が避難を余儀なくされ、その除染が次の課題となっています。

皆様におかれましては、その復旧に直接、間接的に寄与されていることと想像します。福島で対象となっている課題は、応用問題と言えます。直ちに対応できる問題も有りますが、多くはこれまで余り想定していなかったもので、簡単に解決策が見つからない課題も多いのではないかと思います。水化学の分野で活動している者が直ちに役立つことはないかもしれませんが、この分野で永年にわたって培ってきた技術の中には活用できるものもあると想像しています。今後、復旧は数年、さらに十年以上の長丁場になると思われませんが、各々の立場で積極的に取り組み、いち早く復旧が進むことを祈っています。

原子力に身を置く者は当然ですが、一般の国民にとっても、地震の前と後とでは大きく世界が変わりました。脱原子力の声も大きくなってはおりますが、国内には依然として多数のプラントが存在し、しばらくは稼働せざるを得ない状況であり、再稼働をした際には以前にもまして安全な運転を行う必要が有り、水化学の重要性はいささかも減じていないと思われまます。従って、粛々と従来の活動を続けることも必要です。

最後に、地震で被災した方々、避難を余儀なくされている方々に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、復旧作業に日夜ご苦労されている皆様に深く感謝するとともに、一日も早く安定した状態が実現するよう祈っております。